



少子化に対応した活力ある学校 ②

学級数が少ないことによる学校運営上の課題

一般に小規模校には、一人一人の学習状況を的確に把握でき、きめ細かな指導が行いやすい、意見や感想を発表する機会が多くなる、異年齢の学習活動を組みやすい、といった、指導上のメリットがあります。

一方、学級数が少ないことによる学校運営上の課題として、次のようなことが挙げられています。

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 加配なしには、習熟度別指導など学級の枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい。
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が大きく影響される。
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響される。
- ⑬ 児童・生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑭ 教員と児童・生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。



出典：「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（次号以降、「手引」という。）」（平成27年1月 文部科学省）

性は相近し、習えば相遠し

2023年 WBC日本代表チーム監督 栗山英樹

「論語」に「性は相近し、習えば相遠し」との教えがあります。人の性質は生まれたときにはあまり差はないけれど、その後の習慣や教育によって次第に差が大きくなる、という意味です。学びには終わりはなく、学び続けなければ成長はありません。成長とは自分が気持ちよく過ごすため、物欲や支配欲を満たすためなどでなく、自分の周りの人たちの笑顔を少しでも増やせるようにすることだと思えます。

出典：「栗山ノート」（栗山英樹著 光文社）

※ 「成長」を利己ではなく利他の視点で捉えているのが、素晴らしいと思います。